



## テーマ 副業のとらえ方

### ■社員にとっての副業

これは昨年夏に知り合ったAさんの話です。Aさんはサラリーマン7年目の29歳。「いつかは起業したい」と考えている野心家です。

そんなAさんから「副業をしたい」と相談がありました。これは起業の第一歩としていい経験になるのではと思い、軽作業の仕事を発注しました。

簡単な仕事のため大丈夫だろうと考えていましたが、問題は発生しました。納期の前日になってAさんから突然連絡があり「仕事が忙しくて納期に間に合いません。お金はいりませんからキャンセルしたい」とのこと。

納期の変更はできないため、仕方なく途中まで終わった仕事を私が引き継ぎ、その日は深夜まで作業して何とか予定通り納品できました。

後日、Aさんは悪いと思ったのか、菓子折りを持って当社へお詫びに来ました。その時に私がAさんに話したことは次の通りです。

「いざ独立すると、今回のように体がいくつあっても足りない事態に遭遇します。安易に仕事を投げ出せば、お客様の信用を失くして二度と取引してもらえません。できる方法を極限まで考え抜くことが、起業して成功するためには必要です」

話を聞いてみると、Aさんが副業をしようと思ったのは会社の残業が減り、給料が少なくなったことがきっかけでした。

人はお金だけが目的で仕事をすると、壁にぶち当たった時に「やる気」を維持できなくなります。採用面接で人事担当者が「志望動機」を重視する理由は、まさにこの点にあります。仕事の「辛い体験」を「学びや修行」と前向きに受け止めるには、心から叶えたいと思っている夢や目的が必要です。

残業で給料が減ってしまい、不足分を「副業」でカバーしようと思ったAさんには「副業以外でお金を得る方法」をアドバイスしました。それは次の通りです。

「仕事が忙しいAさんには副業よりも経費削減がオススメです。まずは家計簿をつけて毎月の支出に注目して下さい。毎月の経費を減らす方法を探すうちに独立すべき事業も見つかるかもしれません」

Aさんは支出を減らすことは理解出来ましたが、そのことがなぜ「新規事業の発見」につながるのか理解できないようでした。

例えば賃貸マンションに住んでいる場合、契約している不動産会社へ「毎月マンションの通路など共用部分を定期的に掃除しますので、共益費を減額してもらえますか？」と提案することも一つの方法です。

不動産会社から「この人は何を言っているのだろうか？」と思われて、やんわりと断られると思いますが、そんなことを提案する入居者はほとんどいないため、相手の記憶に強烈に残ります。

そしてある日「入居者が対応してくれると助かる仕事」が急に発生した時に、不動産会社から真っ先にAさんへ連絡が来ることでしょう。この時の仕事こそ「不動産会社が困っている仕事」であり、将来独立するための新規事業として有望です。

他の人が「そんなの無理」と思うことに勇気を出して取り組むと、全く予想もしなかった仕事と偶然巡り合うことができます。幸運の女神は「周りから理解されない行動」をすると、向こうから喜んで近寄ってきます。

単にお金だけが目的で副業を探すのであれば、まずは儉約することがオススメです。

### ■経営者にとっての副業

政府の働き方改革の推進のもと、大手企業が副業を解禁する記事が新聞でも目につくようになりました。経営者として注意すべきことは、社員が副業に取り組む動機には、少なからず「会社に対する不満」があることです。

実は社員の不満を垣間見る一つの方法として「キャリア・アンカー診断」があります。

「キャリア・アンカー診断」は40個の設定問に答えるだけで、自分が仕事をするときに最も大切にしている価値観を、8つの分類から知ることができるスグレモノです。

キャリア・アンカーとは、どこでどんな仕事をしていても「これだけは絶対に譲れないと思っている内面的な価値観」のことであり、生涯を通して変わらない特徴があります。

私もさっそくキャリア・アンカー診断をしましたが、8つの価値観の中で「起業家的創造性」が最も高い傾向にあり、今の仕事は「適職」と知って安心しました。

ネットで「キャリア・アンカー診断」と検索すると、無料で診断できるサイトがあります。一度試してみると「仕事に対する自分の本当の気持ち」が分かり、過去に経験した「仕事の不満の原因」をあぶりだすことが可能です。

経営者が「社員一人ひとりの異なるキャリア・アンカー」を尊重し、仕事の種類や環境を考慮することで、社員の仕事を能力を最大化できる可能性があります。その反面、社員の不満にすべて対応することの難しさにも気付くはずですよ。

経営者は副業に対して頭から否定するのではなく、自社では対応しきれない「社員の不満」を解消する手段として、上手に副業を活用することも一つの方法です。お金だけが目的ではなく、今の仕事に相乗効果が得られる副業であれば会社にとってプラスになります。

以上